

～ポーランド国立民族合唱舞踊団 シロンスク公演によせて～
薄井憲二バレエ・コレクション常設展

vol. **76**

ポーランド舞踊「マズルカ」と ロマンティックバレエ

展示期間 /

2019年10月8日(火)～11月17日(日)

(※ 休館日はwebでご確認ください)

企画・構成 /

関 典子(薄井憲二バレエ・コレクション・キュレーター)

2019年11月1日開催の「ポーランド国立民族合唱舞踊団シロンスク」公演によせた展示をお届けします。1840年代、フランスのパリを中心に栄えたロマンティックバレエでは、エキゾティシズム、異国情緒の作風が好まれていました。スコットランド、スペイン、ハンガリー、インド、ポーランドなど他国を舞台とする作品が創られ、それに伴って、「マズルカ」「ポルカ」「ポロネーズ」「タランテラ」「カチューチャ」などの様々な民族舞踊が、バレエ作品にも取り入れられたのです。ファニー・チェリート、ジュール・ペロー、ルシール・グラーンといったロマンティックバレエ時代のスターたちが演じたポーランド舞踊「マズルカ」の世界をお楽しみください。

マズルカ (Mazurka)

3/4拍子または6/8拍子で、カップルによって踊られるポーランドの民族舞踊。最初に記録がみられるのは16世紀。19世紀後半、舞踏会の踊りとしてヨーロッパ中で知られるようになった。足を踏みつけ、かかとを打ち鳴らすステップを特徴とする。『白鳥の湖』や『 Coppélia 』などのクラシックバレエ作品においても、「マズルカ」の有名な例が数多くみられる。

展示中のアンティークプリントに描かれている『ラ・リトゥアナ』は、1840年5月2日、当時の花形バレリーナであったチェリートがロンドン・デビューで踊ったとされる作品。毛皮がトリミングされたジャケットはポーランドの民族衣装の特徴であることから、「マズルカ」であったと推察される。

『エオリーヌ、あるいは森の精』では、振付家ペロー自身が悪魔役を演じ、グラーン演じる森の精エオリーヌと無理矢理「マズルカ」を踊るシーンが描かれている。

ファニー・チェリート (Fanny Cerrito 1817～1909)

イタリアのダンサー。1832年、ナポリで初舞台、その後の約20年間、ヨーロッパ各地で踊り人気を博した。力強く肉感的な踊りはエロティックですらあり、強烈な個性で観客を魅了した。『パ・ド・カトル』(1845)、『パリの審判』(1846)などに出演。1856年、モスクワでのアレクサンドル2世即位祝賀行事の際、不運な事故(火災や舞台装置の倒壊とされる)に遭い、おそらくそれが原因で翌年舞台を引退した。

ジュール・ペロー (Jules-Joseph Perrot 1810～1892)

フランスのバレエダンサー、振付家。マリー・タリオニーやカルロッタ・グリジなど、同時代の偉大なバレリーナと踊り、1836年から振付を開始、『ジゼル』(1841)、『エスメラルダ』(1844)、『パ・ド・カトル』(1845)など、ロマンティックバレエの代表作を生み出した。1850年代以降、ロシア帝室バレエ団のバレエ監督。エドガー・ドガの絵画『バレエ・クラス』(1871～1874)には、指導中のペローの姿も描かれている。

ルシール・グラーン (Lucile Grahn 1819～1907)

デンマークのダンサー。7歳の頃、キューピッド役で初舞台、公式デビューは1834年。ブルノンヴィル版『ラ・シルフィード』(1836)で主演し、国外でも大成功を収める。1839年、パリ・オペラ座入団、ファニー・エルスラーのライバルとなる。ペロー振付『エリオーヌ』(1845)主演。1856年に引退後は、ライプツィヒやミュンヘン宮廷歌劇場でバレエ・ミストレスを務め、ワーグナーのオペラ『ニュルンベルクのマイスタージンガー』(1868)、『ラインの黄金』(1869)の振付も手掛けた。

主な出展リスト

- ◆ SC-02 アントワーヌ・ド・コンツキ作曲『チェリート、お気に入りのマズルカ第84番』/楽譜/ベルギー/1845年頃
- ◆ AP-197 ファニー・チェリート『ラ・リトゥアナ』/アンティークプリント/「オペラ座の栄光:パリとロンドンの主要ダンサーのポーズと肖像」より/フランス:イギリス/1846年
- ◆ AP-009 ジュール・ペロー&ルシール・グラーン/『エオリーヌ、あるいは森の精』より「マズルカ」/アンティークプリント/イギリス/1845年頃



兵庫県立芸術文化センター

〒663-8204 兵庫県西宮市高松町2-22

tel: 0798-68-0223 fax: 0798-68-0212

※ 禁無断転載・複製・引用